松亦及時邁梁見　嗚乎公之威德以何丛（マヽ）
終古乾坤日月明
播州曾根菅公廟松實公所手植也秋主山曾有五排題詩後題
山陽梁星巖用其韻各作七古今茲乙亥之春棟宇再修有臨詩
祭典餘適來遭此梁亦步其韻賦此篇　　岡本黄石

寶物及貴重品

一神社扁額　曼殊院宮良尚法親王御染筆　一面
一德川光圀奉納菅公廟記　貞享三年　一卷
一德川氏朱印狀　九通
一鹽元院御撰奉納和歌　正德五年　一卷
一古鹽松雛形記　寶永四年　一卷
一鹽松詩　釋襄書　鹽田隨齋書　一卷
一古松詩　後崎彌以下書　一卷
一酒井忠學懷紙　一枚
一酒井忠恭短冊　一枚
一酒井忠以懷紙　一枚
一酒井忠以和歌扁額　一面
一賦初何連歌　明和三年　酒井忠以寄進　一通
一傳豐臣秀吉筆和歌小色紙　一軸
一賦山何連歌　明和九年　酒井忠以寄進　一通
一酒井忠知短冊　一枚
一松研記　一卷
一神吉祐定制札　一枚
一本殿再興棟札　天正十八年　一枚
一拜殿再建棟札　慶長十四年　一枚
一本殿再建棟札　明和三年　一枚
一寶殿箱棟札　寶永二年　一枚
一松　硯　一箇
一天神畫像　一軸
一神號軸　整理國師筆　一軸
一墨繪三幅對　從五位伊藤守文寫書　三軸
一日野資勝自畫自贊　一軸
一松濤書　一軸
一墨繪　晚翠筆　二軸
一谷銕臣書　一軸
一岡崎眞鶴書　一軸
一西村桃書　一軸
一夏井村敏書　一軸
一鏡　一面
一短　尺　松平齊生筆　一軸

氏子　千八百戶

鄉社　八幡神社

鎮座地　西神吉村宮前字宮山（ニシカンキ）
（播磨鑑）神吉庄　宮前村北ノ山ニ有リ

祭神　譽田別命

由緒　稱光天皇の御宇應永年間の創立にして播磨國印南郡神吉の莊天下原村圭光山鞍馬寺の境內に鎮座せしも、後ち神吉の庄大國村に遷座し妙見大明神と稱す次いで嘉吉の兵燹に罹り社殿悉く燒失せしかば聖武天皇の行宮と傳ふる神吉庄宮前村北の山なる地に社殿を建て妙見山寶林寺中之坊妙見大明神と云ひ、其大國村舊地を御旅所とす次いで御旅所に又妙見大明神の祠を建てしかば爾後當社を上の宮と云ひ御旅所の祠を下の宮と云ふ天文年間神吉城主中務少輔社殿を造營し江戶時代姫路藩主池田輝政は慶長十八年十月に所司代板倉伊賀守は元和二年に何れも社領五石を寄進せらるゝ等崇敬最も厚く且つ每歲の例祭には家臣を參向せしめ親しく代參なさしめたり寬永九年雷震ひ社殿其他の營造物悉く烏有に歸し天和三年五月二十四日之を再建せり卽ち現

今の社殿是なり明治維新の際神佛混淆を禁ぜられたるを以て妙見大明神を八幡神社と改稱し明治七年二月村社に列し昭和五年十月郷社に昇格す

〔八幡神社縁起。延寶八年〕播磨國印南郡神吉庄妙見山寶林寺中之坊妙見大明神者仁王百有二代稱光院御宇應永年中九月二十三日清夜無雲一天赫々東西闊而無聲無臭南北復然乎時急天如響皆人覺夢地但震悉驚出南顧西眄北眺東瞰仰背臥地夜漫欽將曙東天暈炫如電光赫齋日中無僧俗無貴賤無男無女老若尊卑行忽驚眠早愕疑何許如失魂襲伏逋竄匠叛夥乎可南乎可北哉爾處圭光山鞍馬寺靈嶽明星來影盍贅闐成市滿巖此靈岳經日光尚不絶過時曜不止耀滄海朗碧天時有託母躁嬾家是天明星根虛空藏大菩薩也本地峯高澄法性宗應用跡迂臨穢土境衛護此處一切衆生與繁榮熙五穀下種結緣慈雲高靉一天接化利生法雨普灑四海續廢止亂諒知上古寡儒今來際有乎憑茲皆人摘花饋供五體投地跼而謹仰頭面接足徘徊賓客輻湊瞻望迥出思議之表此處鑪區巨測窺曦昔植善種今復生芽莖蠱法筵所矣碧草金砂軟山庭拾菓岩畔負薪仍夫興于餘薫惟巨今圭光山鞍馬寺蕤誰開興乎不知何人石面彫刻毘沙門天王尊容不動明王形像毘沙門積福德取上往因贄無福輩呻泥土不動尊惡魔降伏形躰爲衆生悲愍圖焉者也此嵩趾號天下原大國村建鎭壇張幃燔香捧幣帛奉膳夙興晏寢隨從自此地配北峨々乎有高山草木繁茂嵩石聳立其景勝餘景魏々矣堂々乎飛鳥纏蓊翼夢明星此處飛展岷復寒嶋構社崇如故號上宮。中略始造營大國村社號古宮。中略上宮乞請八幡宮合祠仰當社守護日夜朝暮祈氏子繁榮五穀撫育懇精思惟此山邊信忠卿企軍陣戰場遺跡矣也興兵亂諍勝負信長記神吉志方間山是也

爾治延寶第八上章涒灘孟秋日　神宮寺中之坊

紀州南岳桑門鎔上之住宋旭軒雪單深覺欽註

〔播磨鑑〕妙見大妙神　板倉伊賀守證文　社領五斛

祭神妙見大菩薩

舞殿　拜殿　舞臺　楯掛　樂屋　門守殿　石ノ鳥居

〔村翁夜話集〕妙見大明神社

社領五石神吉村高の内にて引申候

右御證文池田様ゟ被下置候處寛永九申年燒失其後御證文無御座候へども御代々様神吉村高の内にて年々御下ケ爲被下候

〔神吉組明細帳〕妙見大明神本社壱丈壱間

舞殿貳間三間　拜殿六間貳間半

舞臺貳間三間　階掛り六間壱間

樂屋五間貳間　御輿藏貳間貳尺貳間

祇園社貳尺四方　愛宕社貳尺四方

社日社貳尺四方　閻神三間壱間半

一御證文社領高五石

池田三左衛門様御寄附射場友軒様御證文ニ而御座候處寛永九年酉之年燒失仕候其節寺社御奉行様ゟ御代々御願申上候依之

相違無御座候

右社領田地八神吉村大庄屋十左衛門作仕社納仕候

〔神社扁額〕妙見宮

〔播磨古跡考〕妙見大明神　社領五石

〔播磨名所巡覽圖會〕妙見大明神

〔和漢三才圖會〕妙見大明神　社領五石

〔天和造營記錄。西神吉村鼎中廣之氏所藏〕神吉御宮造營天和三年亥ノ正月十一日てうのぞめ五月廿四日に立濟算用

大工數之覺

一百四拾七人　正月分

一貳百三拾貳人　二月分

一貳百四拾參人　三月分

一百六拾壹人　四月分

一百拾三人　五月分

一百七拾人　壬五月分

〆千六拾六人算用後ニ外ニ三十人都合千百人

一銀壹貫五百目定り作料
一百拾三匁　まし作料
一三拾匁　たばこ代
一三拾匁　兵大夫
〆壹貫六百七拾參匁
御宮奉加銀庄内ゟ見付人數
神吉
一二郎兵衛殿　五郎太夫殿　孫左衛門　次左衛門
喜左衛門　德左衛門　猪兵衛　五郎兵衛
久兵衛
天下原
一庄右衛門　善九郎　德兵衛
宮前
一七兵衛　七右衛門　八郎兵衛
清水
一久太夫　七郎兵衛　三郎兵衛

下富木
一作太夫

〔本殿高欄疑寶珠銘。元祿十二年　正德元年〕
神吉庄　妙見宮　元祿卯九月　日

○

神吉庄　妙見宮　正德元年卯九月　日
〔神饌幣帛料供進神社指定年月〕明治四十五年三月三十日

境内　三千八百二十五坪。内三千四百四十八坪官有地　三百七十七坪民有地

〔播磨鑑〕山林免許
〔神吉組明細帳。寛保二年〕境内　東ハ大池宮前村新田畑限
西ハ宮前村新畑大庄屋請林切南者宮前村本田畑切北ハ
宮前村新畑限り
右境内田畑三反七畝先年御願中上開發仕社僧作仕候

營造物
本殿　銅葺春日造六坪
幣殿　瓦葺切妻造十二坪

拜殿　瓦葺入母屋造十八坪
神饌所　一坪三合三勺　社務所　四十坪五合

境内神社　稲荷神社（稲倉魂神）　愛宕神社（武甕槌命）
大歳神社（御年神　*稲倉魂神　*菅原道眞）
由緒〔八神社明細帳〕同村大歳神社二社若宮神社、稲荷神社及本社境内天神社ヲ合祀ト共ニ大歳神社ト改稱明治四十二年七月四日合祀濟
八坂神社（素盞嗚命）

祭日　厄除祭　二月十九日　春祭　五月十日
獻湯祭　五月。二十三日又ハ晦日、太陰暦
例祭　十月十七日

〔神社調書〕當社（上之宮）より下之宮（西神吉村大國字村中無格社八幡神社）へ神幸式あり初めは太陰暦九月二十三日なりき而して神幸式は氏子各村輪番にて奉仕し明治二十年頃迄は當番村は陰暦八月朔日に村内の者集合して御神事協議會を開きて頭人其他の役割を定む

頭人には大頭（大人、今はなし）小頭（小人）の別ありて陰暦九月十七日の當日其家の門先に祭壇を築き氏神を奉齋す祭壇の樣式は芝草を盛り重ね周圍には注連繩を曳き廻らし中央に根着きの大榊壹本を植ゑ御神鏡幣帛を結ひ垂れ其兩側に燈籠二基を建つかくて宵宮の當日猿田彦二名乃至四名は區長其他の役員同伴にて宮入りの上祈願祭儀を行ひ晝宮は馬乘にて社參神幸式に供奉す

〔播磨鑑〕祭禮　九月二十三日　頭人アリ氏村隔年勤之神輿一基神式最賑シ
御旅社在大國村間十丁許未ノ方
大國村ノ社ニモ舞臺有テ本社ニ散樂有リ夜ミヤニ此社ニテ二番勤之
〔八幡神社緣起〕至于今毎歳九月二十三日於此處。古宮至致神遊祭社職氏子率崇從矣樹一箇者童兒一人嚴衣裝禦齊謁

〔播磨名所巡覽圖繪〕例祭九月二十三日

寶物及貴重品

一八幡神社縁起　延寶八年　一卷
一御神事之繪卷　文政三年　一卷
一御宮寶林寺代々什物帳　明和四年　一冊
一奉仕社神號書上帖　明治三年　一冊
一神武組合村帳　明治十年　一冊
一宮前村明細帳　寛保二年　一冊
一神吉組明細帳　寛保二年　一冊
一狛犬　一對

氏子　百十戸

郷社　湊（ミナ）神社

鎮座地　的形村的形字下坂

〔播磨鑑〕的形村

祭神　素盞嗚命　*大歳大神

由緒　創立年月不詳神功皇后當社に參拜せられしと傳ふ明治七年二月郷社に列せらる

〔湊神社々記〕古老の口碑に傳ふる處に據れば古昔鵜湊明神と稱し其神威殊に尊く坐しければ神功皇后三韓御征伐の砌當鵜湊に御船を着け當社に參拜あらせられ征討の吉凶を卜し給はんとて親ら弓箭を取り射の技を試み給ひしに吉兆を得給ひしかば其縁に由りて村名を的形と云ひ社號を湊といふ其當時皇后の的を立て給し處は字小島の中央なる一孤山にして其形龜の如く突兀として高く平地を抜き金山岩石より成り宛も人工を以て故らに築きなしたるが如く上に老松茂生翠色葱々として千古の色を滴らし矚目絶佳風色掬すべし此處に仲哀天皇神功皇后并に譽田別命奉祀の宮居あり年々の例祭には必ず當社より神輿渡御の式あり即ち國内神名帳を閲するに印南郡湊明神とあり是當社の御事也中葉改稱して大歳大明神と號せり元和五年板倉伊賀守勝重殿神領六石六斗御寄進の黒印狀にも印南郡大歳大明神と見えたり明治維新の初め祭神調査の際建速素盞雄尊大歳大神の二柱鎮座のこと及び古來口碑の傳説を以て建言し即ち太古の社號に復し湊神社と改稱し且つ社格は郷社を賜はりぬ

〔印南郡誌〕播州古所拾考に的形は神功皇后麻生山御座の時異國御退治の御門出に射御の的ありし所播陽古所歌集に「ながめやるその古への的形は神の門出のしるしとはしれ」とあるに由りても右由緒中神功皇后三韓御征伐の砌當鵜湊に御着船當社に御參拜あらせられ征討の吉凶を卜し給はんとて自ら弓箭を取り射の技を試み給ふと傳ふるの證しとなすべし

配祀

〔播磨鑑〕大歳社　板倉侯證文　社領六石六斗

〔國内鎮守大小明神社記〕

印南郡七社
小社百五十社
湊明神

〔神社文書〕播磨國印南郡大歳大明神領六石六斗事於的形村之内任當知行之旨被寄附訖彌領掌不可有相違之由所被仰下也仍而執達如件

元和五己未年九月二十四日　源朝臣伊賀守勝重（花押）

蓮華院別當御房

〔大歳大明神社頭修覆棟札。明和四年〕的形村大歳大明神社頭修覆之記

生土大歳大明神之殿宇　久不加修覆近年爲風雨大破於是乎邑裏相謀今茲丁亥春發事使諸工人勤之棟梁之朽楹柱之蠹皆拔而新之屋上葺之以檜皮往昔檜皮中興以柿今復復昔而樸風經木之法制威備神威于是益光民庶以之而修覆功成之日略記其事以揭棟上